

2021年3月19日第69回運輸政策セミナー
九州におけるマルチモーダルモビリティサービス「my route」について
～トヨタ・西鉄・JR九州によるMaaSの共創～
宿利会長 開会挨拶

皆様こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利正史です。

本日の第69回運輸政策セミナーにも、多くの皆様にご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、本日ご登壇いただくトヨタ自動車、JR九州及び西日本鉄道の3社は、2019年より、交通及び店舗・イベント情報のサービサー各社と協力して、マルチモーダルモビリティサービス「my route（マイルート）」を福岡市・北九州市などで展開しています。

このうち、トヨタ自動車は、モビリティカンパニーを目指すという同社の取り組みの一環として、「my route」プラットフォームや決済システムの開発を行い、JR九州及び西鉄は、「my route」を活用したMaaSの推進、AIオンデマンド交通の展開、乗りつぎ利便性の向上など、持続可能な公共交通ネットワークの構築に向けた取り組みを行っています。

JR九州と西鉄は、国鉄改革によって1987年にJR九州が発足して以来、九州において激しい競争関係の中でお互いに切磋琢磨し、それぞれが輸送サービスの改善や関連事業の充実を図ることによって、九州の地域の経済や社会の発展に大きく貢献してきました。

そのような関係にある両社が、近年の人口減少・高齢化による需要の減少、労働力の不足の問題、また新型コロナウイルス感染症による甚大な影響などの逆境下で、「my route」の取り組みを通じ、いかに「競争から協調」に転換したのか、そして、従来公共交通対マイカーという構図でとらえられることが多かったトヨタ自動車と両社が連携して、どのようにMaaSに取り組んでいるのかについて、それぞれの視点から紹介していただきます。

本日は、現場で実際にこの取り組みに携わってこられた、トヨタ自動車の間嶋さま、JR九州の木下さま、そして西鉄の阿部さまにご講演いただきます。

御三方からのご講演の後、コメンテーターとして、東京大学公共政策大学院で交通政策を専攻する長谷特任教授からコメントをいただきます。

長谷教授と私は、東京大学公共政策大学院で5年間にわたって一緒に活動をしておりまして、後ほど長谷教授から大学についてお話があるかと思いますが、本日のセミナーは、九州における「my route」の取り組みについて、大学の授業の場だけではなく、運輸政策セミナーを通じて広く多くの皆様に知っていただけてはどうかという、長谷教授からの昨年末の提案によって企画・開催したものであることをお伝えしておきたいと思えます。

長谷教授のコメントの後はいつものとおりに、当研究所の山内所長がモデレーターとなりまして、対談及び皆様方との質疑応答という流れで進めていきます。

このセミナーを通じて、地域の交通に関わる幅広い分野の事業者が参画し、協働して、便利で有用な MaaS を構築し、そして、それを活かして地域の持続可能な公共交通を作り上げ、また、地域の活性化を図っていくにはどうすればよいかについて、皆様と共に考察を深めてまいりたいと思えます。

最後に、本日のセミナーにご参加いただきました多くの皆様方にとりまして真に有益なものとなりますことを期待いたしまして、私の冒頭の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございます。